

向島二の丸小学校跡地における
一般財団法人あしなが育英会 あしなが京都志塾／心塾構想について



一般財団法人 あしなが育英会

一般財団法人 あしなが育英会の概要

名称： 一般財団法人 あしなが育英会
所在地： 東京都千代田区平河町2丁目7-5 砂防会館4F
設立： 1993年4月
会長： 玉井義臣

理念：

広く社会からのフィランソロピー（やさしい人間愛）精神に基づく社会からの支援によって、遺児（※）に対して教育支援と心のケア等を提供し、やさしさの連鎖を世界中に広げながら人間の尊厳が脅かされることのない社会をめざしています。（※）保護者が死亡した、または保護者が著しい障害を負っている子ども

活動内容：

本会は「教育」と「心のケア」を通じた人材育成を行っております。「教育」事業では遺児の高等教育進学支援のために、累計で約46,000人に対し約473億円の奨学金を無利子で貸し出しています(2018年度実績)。2018年からは貸与型に給付型を加えた奨学金制度を開始し、約5,260人が合計15.5億円の給付金を受けることができました。また東京と神戸で地方の学生や経済的に進学が厳しい学生の大学進学を可能にする学生寮「心塾」も運営しています。さらに「心のケア」事業では東京と神戸および東北で「レインボーハウス」を運営し、親を亡くした子供たちの心のケアを実施しています。ケア活動の一環として夏休みや土日には、日帰りや宿泊のつどいも実施しています。

一般財団法人 あしなが育英会の概要

主な沿革：

1963年：交通事故遺児を励ます会結成

1969年：財団法人交通遺児育英会（永野会長、玉井専務、岡嶋理事）設立

1971年：「第1回全国学生交通遺児育英募金」開始／現在のあしなが学生募金に繋がる

1978年：交通遺児学生寮「心塾」（東京・日野市）開塾

1990年：玉井、朝日新聞社より「朝日社会福祉賞」受賞

／受賞理由：「交通遺児を救済して社会福祉に貢献」と、心塾など独自の教育

1993年：「あしなが育英会」誕生／「災害遺児の会」と「病気遺児の会」が合併

1999年：「神戸レインボーハウス」（神戸市）完成／日本初の、震災遺児の心のケア施設

2002年：国際NGO「あしながウガンダ」開設、翌年「ウガンダレインボーハウス」完成

2006年：「あしなが心塾レインボーハウス」（東京都日野市）完成

／180人収容の学生寮と遺児のケアセンター

2014年：「東北レインボーハウス」（仙台/石巻/陸前高田）完成／東北初の心のケア施設

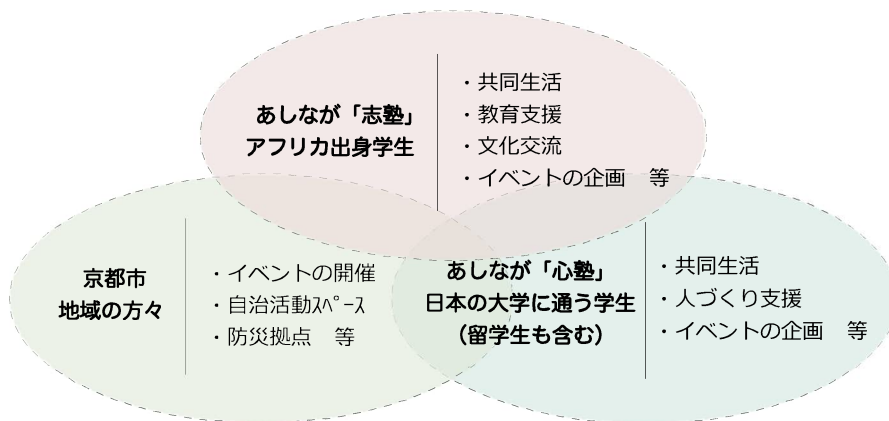
2014年：アフリカ遺児高等支援 100年構想事業 1 期生採用

2015年：「ウガンダ心塾」完成

2019年：一般財団法人あしなが育英会として事業開始

あしなが京都志塾／心塾構想の概要

「文化の多様性と地域との共存を重視した、遺児のための教育支援施設」



コンセプト：

あしなが育英会独自の活動である「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」に基づき、アフリカ出身学生の教育支援を目的とした施設「志塾」を開塾します。さらに、あしなが育英会が従来からもつ「心塾」を同じ敷地で開塾し、伝統文化と現代の都市が共存している京都で、多様な文化や地域との交流を生かした学習・生活環境を整備します。

「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」の概要

「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」とは、貧しい国が多いサブサハラ(サハラ砂漠以南)アフリカ49か国から毎年一人ずつ優秀な遺児を選抜し世界の大学に留学する機会を通して、母国の様々な分野で活躍し、母国の発展を担うリーダーを育成しようとする構想です。片親もしくは両親を亡くし、優秀でありながら経済的に進学が困難な学生はウガンダまたはセネガルにある学生寮「あしなが心塾」で行われる「勉強合宿」に参加。世界トップクラスの大学に進学し、就学に必要な奨学金と生活費が支給されます。その他にも卒業後に母国に帰って働くためのリーダー育成プログラムなどにも参加します。重要なのは、卒業後に習得した知識や経験を活かし母国の発展に貢献することです。そして、多くの人の支えにより受けた教育を社会に還元する「あしながスピリット」をもった人材を次世代に育成し続けること。それが100年構想の根幹です。



ウガンダ心塾／ウガンダ共和国

“志塾”の概要

あしなが志塾は「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」の目的である、母国に貢献するリーダー育成の根幹となる志の育成をミッションとしています。大学入学に必要な学力や言語力の向上だけに留まらず、周囲の住民との交流や社会課題の解決を目指した実践的なプロジェクトや産学民の専門家を招いての学び、アフリカの歴史や可能性を新たな視点で学ぶなど、多岐にわたるプログラムを実施する予定です。またアフリカ、日本のみに関わらず世界中の同世代との交流も重視しています。これまでウガンダ心塾、セネガル心塾では5年間で約100名の学生が世界の大学へと巣立っていきました。



“心塾”の概要

あしなが心塾のミッションとは、「暖かい心」「広い視野」「行動力」「国際性」を兼ね備え、広く人類社会に貢献する人材を育てることです。これを自他の幸福を追求し、志高くワークハードするために不可欠な4つの要素と定めています。

「暖かい心」とは、主要能力(キー・コンピテンシー)の中でも革新となるべきものであり、まさに“世のため人のため”に生きる上での土台となります。

「広い視野」は志を高く持ち、大所高所から物事を考えるために、そして「行動力」はその志を遂げるためになくてはならない力です。また「国際性」を身に付け、近年のグローバル化された社会において、世界中のどんな人とも共に仕事ができる国際感覚豊かな人間となることを目指します。あしなが心塾におけるすべての教育方針や、実際のカリキュラム、日常生活は、この理念の元に計画されています。



巨木を育てる心塾教育の図（玉井塾長直筆）



施設の概要

- 敷地： 元京都市立向島二の丸小学校跡地
- 構想用途： 寄宿舍（志塾：約80名／心塾：約200名）
- 開設予定時期： 2021年9月を目途
- 建物規模： 延床面積：約10,000㎡程度（既存校舎利活用部：約8,500㎡／新築部：約1,500㎡）
建築面積：約4,500㎡程度を予定
- その他： 施設の一部に、地域住民にも開放できる研修室や講堂等を設置予定。

元向島二の丸小学校跡地を希望する理由

- ・ 向島は京都駅から近く、敷地は駅からも近いので、交通の便が良い
- ・ 京都文教大学など、周囲に教育施設が多い
- ・ インドインターナショナルスクールや留学生の宿舎があることなど、多文化共生の下地がある

あしなが京都志塾／心塾構想の特徴

あしなが「志塾」

- ・ アフリカ出身学生の教育支援を行う学生寮として整備。
- ・ 周辺の大学や地域住民、伝統文化に関わる専門家など、様々な方面から積極的にゲストを招いた勉強会等を開催し、文化・地域交流の拠点とする。
- ・ アフリカの情報、あしなが育英会の活動を発信する場としても活用される。

あしなが「心塾」

- ・ 既存校舎の意匠や構造を生かし日本の大学に通う学生の寮として整備します。
- ・ 他文化や地域との交流を通し、人づくりの教育支援を行います。



※図は計画段階のイメージであり、今後変更となる可能性があります。

配置計画

寄宿舍棟／職員棟

既存の校舎を利活用しながら、
学生の寄宿舍として整備します。

講堂

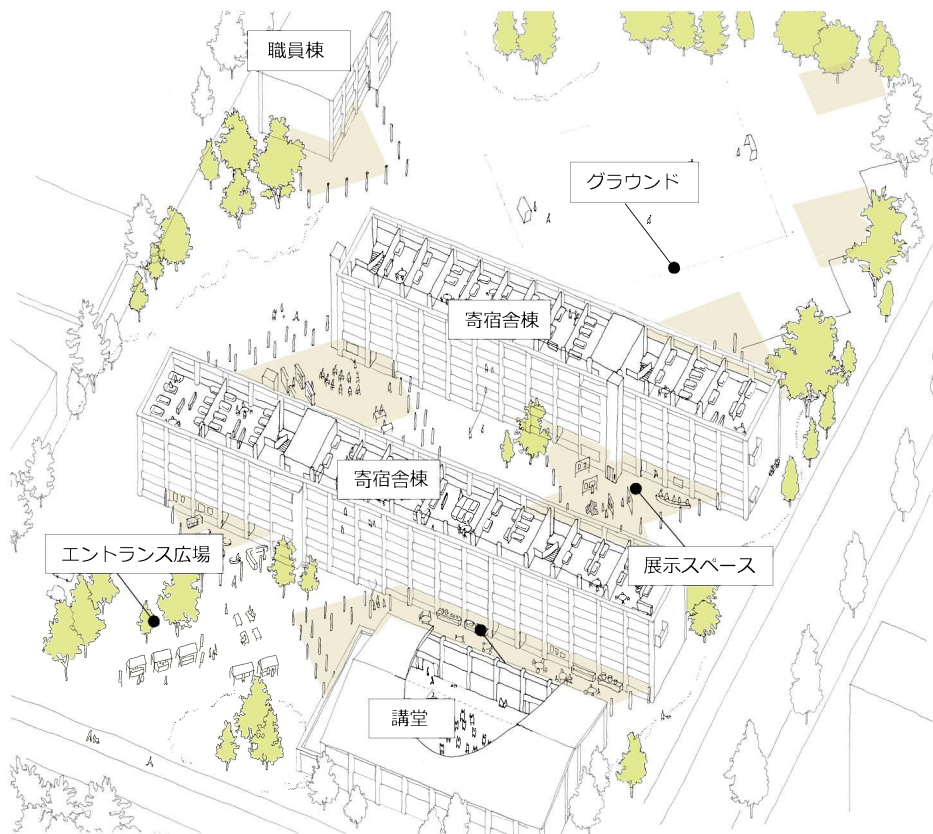
体育館を利活用し、ゲストの講演や
一般開放する講座など幅広く活用
できる講堂を整備します。

エントランス広場

敷地北側の中央公園に面するエント
ランス広場は施設利用者や地域住民
にとっても身近な居場所となるよう
に計画していきます。

展示スペース

アフリカに特化した情報や、あしな
が育英会の活動を一般の方々に発信
する場として計画していきます。



※図は計画段階のイメージであり、今後変更となる可能性があります。

向島ニュータウンまちづくりビジョンへの貢献

元向島二の丸小学校跡地を活用させて頂くにあたり、向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会が取りまとめる「向島ニュータウンまちづくりビジョン」の方針を尊重し、その内容に十分配慮します。

（仮称）あしなが志塾／心塾の整備により、向島のまちづくりへ下記のような貢献ができると考えています。

コミュニティの活性化	志塾には講堂や研修室などを整備し、地域の方々への部屋の貸出しや、地域と連携したイベント開催を通じて、地域コミュニティの活性化への貢献を目指します あしなが育英会の学生と地域の多文化・多世代の方々との交流により、地域の知識集積や価値創造の拠点とします。 若い学生が集まることにより、地域の賑わいを創出します。
環境への配慮	自然採光、自然通風などを活用し、環境負荷の軽減を図ります。既存の樹木を活用し、植栽等も含めた総合的な敷地計画で、緑豊かな環境の形成を目指します。
安心・安全への配慮	建物のバリアフリー化と情報発信のバリアフリー化により多文化・多世代の方々安心して利用できる施設とします。 災害時には従来の向島二の丸小学校が担っていた役割、機能の継承を目指します。

